

これからの社会を構想する「公共」の授業開発

～エネルギーに関する新技術を題材として～

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

青山 智哉

本研究は、「生徒はエネルギーを視点とし、これからの社会を構想することができるのか？」を RQ と設定し、「公共」の内容として取り扱われている「相互依存」を踏まえて資源・エネルギー問題を題材に、これからの社会を構想する授業を開発し、構想する学習がどの程度成立するのかを明らかにすることを目的とする。研究の方法として、単元を貫く問いを「エネルギーと関わるこれからの社会はどのように変化していだろうか？」として、3時間の授業実践を行い、評価の観点からも検討する。分析では学習指導要領の観点に基づく思考・判断・表現の5段階ルーブリックを作成し、3時間の授業前、授業後の自由記述の文章（事前・事後調査）を分析の対象として評価し、その変容を把握する。加えて、計量テキスト分析により事前・事後調査を4クラス全体の共起ネットワークとして作成し、出現語彙の結びつきに着目する。さらに1クラスを抽出して事前、事後調査の共起ネットワークにおける語彙の結びつきの変化を考察する。